

コロニアルクアッド

どんな街並みにも美しく映える、スタンダードデザイン。



CC262*
ネオ・ブラック



CC275P*
パール・グレイ



CC235P*
アイス・シルバー



CC225P*
シルバー・ホホワイト



CC221P*
ココナッツ・ブラウン



CC241*
ウォルナット・ブラウン



CC247*
アイリッシュ・グリーン



CC277*
ウェザード・グリーン



CC223*
メロウ・オレンジ

2017年3月21日～
地区別品番設定



CC293*
ボルドー・レッド

2017年3月21日～
地区別品番設定



CC226*
ミッドナイト・ブルー

2017年4月3日新発売



CC291*
グラス・ブラウン

2017年4月3日新発売

2017年3月21日より全色を地区別品番に変更。色により地区別品番が異なりますのでご注意ください。

*=W W地区 * =G G地区 * =AW AW地区

耐震性

地震の揺れを小さくする。

KMEW屋根材は、陶器平板瓦の約1/2という軽さ

地震大国と呼ばれる日本の暮らしにおいて、住まいの耐震化は非常に重要な課題。一般的に建物の揺れを軽減するには、建物の重量を軽く、重心を低くすることが有効とされています。KMEW屋根材は、重量が陶器平板瓦の約1/2の「軽い屋根」。万一の地震にも暮らしの安心を守ります。

屋根材別[重さ]比較(kg/坪) - 屋根材本体の重量



地震に有効な「軽い屋根」のメカニズム

建物の重量を軽く



地震のとき、重い建物ほど地震の力を大きく受けます。屋根を軽くすれば、地震の際に建物にかかる力をより小さくすることができます。

建物の重心を低く



地震のとき、重心が高い建物ほど揺れは大きくなります。屋根を軽くすれば、建物の重心が低くなり、揺れ幅をより小さくすることができます。

KMEWがご提案する「軽い屋根」



軽い屋根による減震効果。そのメカニズムや施工例などを紹介したホームページを開設しています。

<http://www.kmew.co.jp/shouhin/roof/karuiyane/>

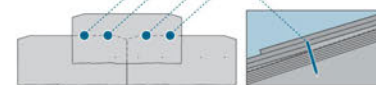
耐風性能

台風に強い。

全数釘止め工法で、強風でのズレや飛散を防ぎます

その形状や釘穴位置など、KMEW屋根材は耐風性を十分に考慮した設計。風の抵抗を効率よく逃がす設計に加え、一枚一枚の屋根材を独自の釘止め方式で固定する施工方法で、強風による屋根材の飛散やズレを最小限に抑えます。

一枚一枚が4本の釘でしっかり固定されているため、強風による飛散が防止できます。



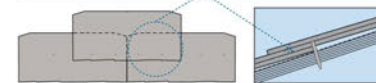
防水性

大雨からもしっかりガード。

優れた防水設計で、大雨の際も漏水を抑えます。

KMEWの屋根材は屋根材プラス下葺材の2段階の防水設計を採用。カラーベストは屋根材の大きな重なり部分で雨水の浸入を防ぎ、残りの雨水の回り込みも下地の防水シートによって防止します。

一重部分がほとんどない大きな重なりのため、優れた防水性を確保しています。



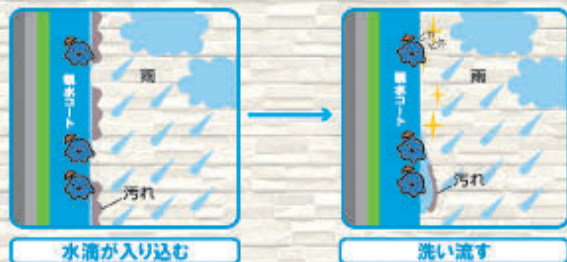
雨で汚れを洗い流します。

親水性

親水コートの表面は水になじみやすい親水基に覆われています。雨が降れば親水基が汚れとの間に雨水を入り込みやすくするため、壁に付着した汚れが浮き上がり、雨水と一緒に洗い流してくれます。

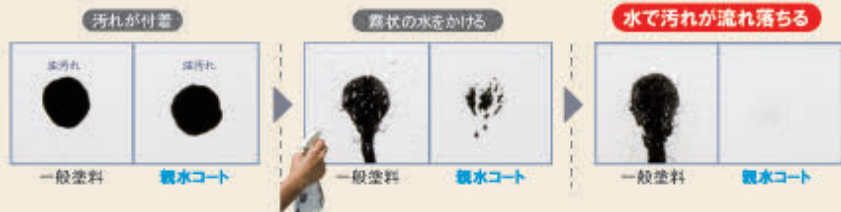
雨が浮かして流す

水が汚れの下に入り込み、浮き上がることで、汚れが流れ落ちます。

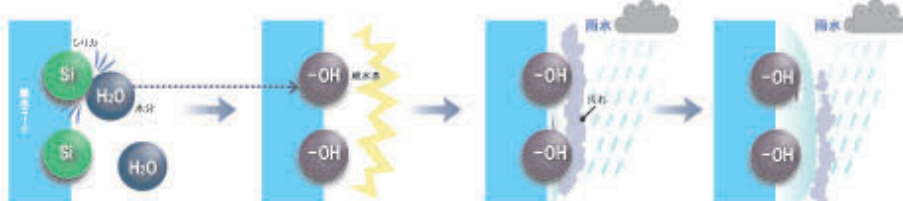


汚れ落ち試験 [条件] ●油汚れ：一般食用油+カーボンを使用

※社内実験結果です。



[親水性]が雨で汚れを洗い流します。



親水性の高いSi(シリカ)が空気中のH₂O(水分子)を吸着します。

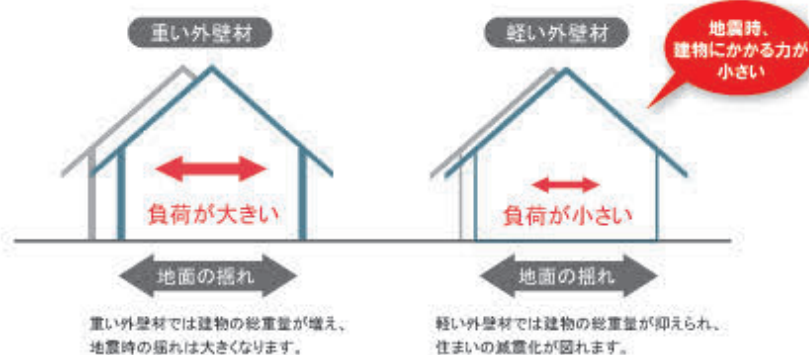
SiとH₂Oが反応した結果、表面に水となじみが非常によい-OH(親水基)ができます。

-OH(親水基)が出来る事により水が汚れの下に入り込み、浮き上がらせ汚れを洗い落とします。

●ネオロック・親水18/エクセレージ・親水15の許汚効果は、弊社従来品と比較し排気ガスや埃、砂塵に対して効果を発揮しますが、多量に供給される環境下では効果が発揮されない場合があります。また、局部的に汚れが集中し高い割合で埃・コケ・鳥糞の付着・発生に対しては効果が低くなる場合があります。特に局部的に汚れが集中しやすい部位には、ツタワンドやロンツタワンドのご使用をおすすめいたします。 ●汚れが気になる場合は、中性洗剤とスポンジを使って水洗いすることも汚れを落とすことが可能です。

地震時の揺れを軽減。

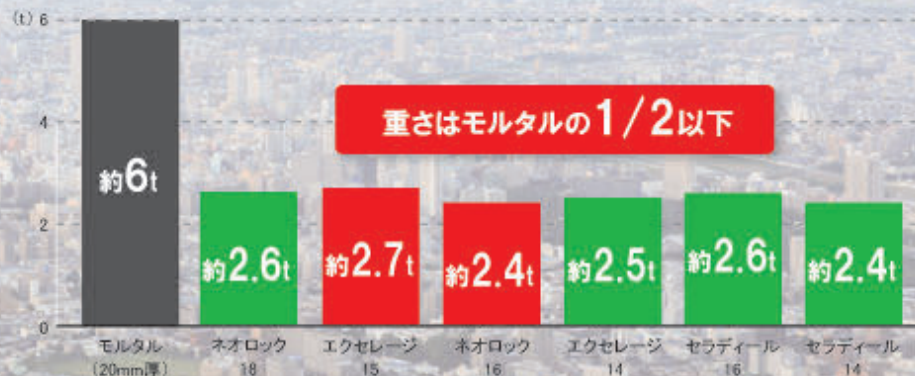
軽い外壁材だから、地震時の建物の負荷が小さい。



重い外壁材では建物の総重量が増え、地震時の揺れは大きくなります。

軽い外壁材では建物の総重量が抑えられ、住まいの減震化が図れます。

■1棟あたりの重量比較 ※1棟当たりの外壁面積を150㎡として換算。各シリーズの最大重量で算出。



阪神淡路大震災でも実証、
窯業系外壁材の住宅には大きな被害は発生なし。

■窯業系外壁材被災グラフ

窯業系外壁材の家はほとんど無傷

全倒舎宅 約10%
一部被害 約4%

無傷 約86%

※東京大学「1995年3月阪神大震災調査」より
(対象は、調査地域の非制震住宅のうちの一部をのぞいたもの)